

**日本小児科学会会長
国立成育医療研究センター総長・理事長
五十嵐 隆**



**日本小児救急医学会災害医療委員会東日本大震災継続支援
ワーキンググループの活動 5 周年にあたって**

日本小児救急医学会災害医療委員会東日本大震災継続支援ワーキンググループ（WG）の活動が 5 周年を迎えられたことをお慶び申し上げます。

同 WG が東日本大震災で大打撃を受けた岩手県、宮城県、福島県の医療施設に、2015 年 9 月末日までにのべ 1,119 日、485 件の医療支援をされてきたことに感謝いたします。地域の医療ニーズに合わせた医療支援を地道に途切れることなく実行することは簡単なことではありません。これまで同 WG が支援をされてきた地域はもともと医療過疎の状況にあるところが多く、同 WG の継続的な医療支援はそれらの地域に大きな助けとなったことは間違えありません。これからも医療支援の必要な状況にある地域は少なくなく、同 WG が活動を続けられることを願っております。また、日本小児科学会としても同 WG の活動をこれからも支援したいと考えます。

2016.3.11

東日本大震災直後から日本小児救急医学会は迅速かつ力強い支援活動をされました。その活動の一部を日本小児科学会が引き継ぎ、会員の協力を得て、岩手県と福島県への小児科医の派遣活動に協力いたしました。東日本大震災小児医療復興新生事務局は昨年より HP を立ち上げ、宮城県を加えた被災 3 県の現場ニーズを的確にとらえ、必要な支援を迅速に行うためのセンターとして機能されています。日本小児科学会としてもこの活動に全面的に御協力させて戴きます。大震災からすでに 3 年が過ぎた現在、子どものこころと体の両面においてこれまでとは異なった問題が生じています。小児医療・保健に関わるすべての方が、これからも心を込めた支援を続けたいと考えます。

2014.3.24

東日本大震災小児医療復興新生事務局 HP の立ち上げに際して

東日本大震災直後からの日本小児救急医学会の迅速で力強い対応には目を見張る思いでした。その活動を支援するため、日本小児科学会も会員の協力の下で、福島県と宮城県への小児科医

の派遣活動に協力させて頂きました。大震災からすでに2年が過ぎた現在でも地域の復興は道半ばで、子どもの心と体の両面において新たな問題が生じています。今後、東日本大震災小児医療復興新生事務局が中心になり現場のニーズを正しくとらえ、必要な支援を行うためのセンターとして機能して下さることに大いに期待しています。この度同事務局のHPができたことを伺いました。今後、さらに活動が活発になることでしょう。日本小児科学会としてもこの活動に全面的に御協力いたす所存です。

2013.6.6